

GX8 PLC 間デバイス転送（スクリプト使用）

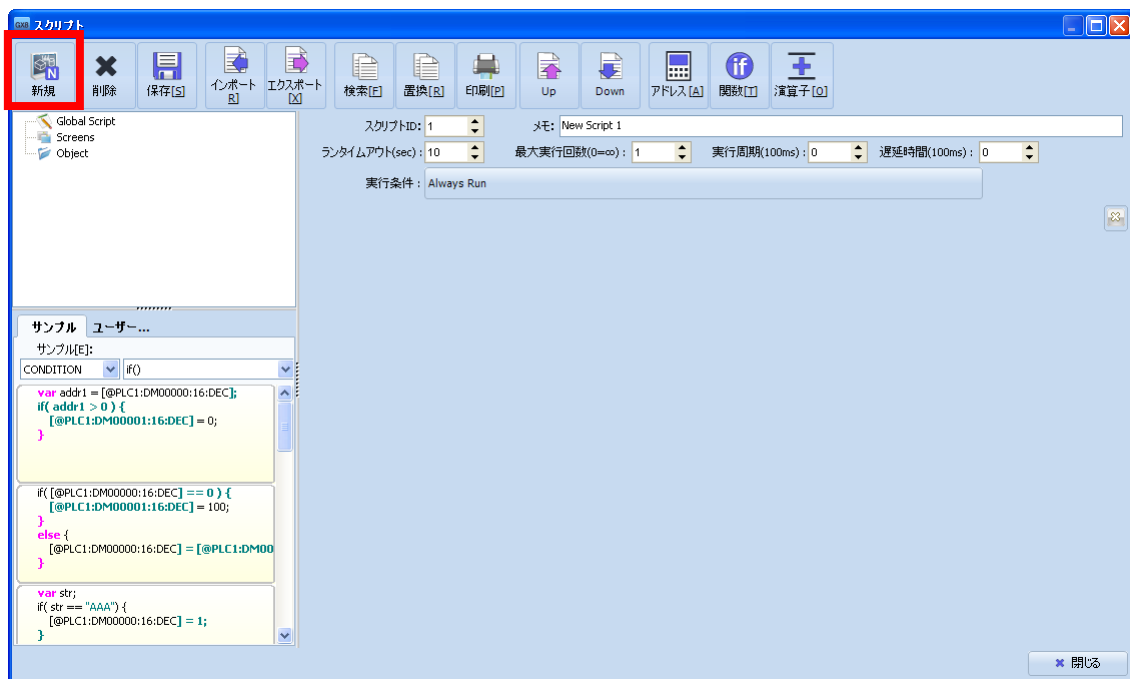
※スクリプトを使用しますと、GX8 に負荷がかかりますので、GX8 の処理が遅くなる場合がございます。

例) 2台の PLC 間で、デバイスのやり取りを行うスクリプト設定

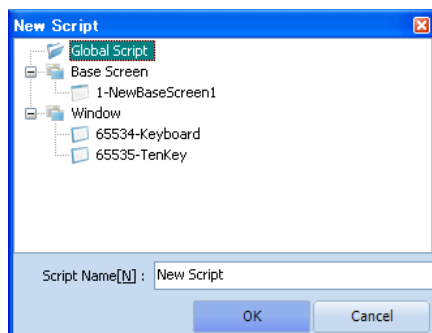
[プロジェクト]タブ内の「スクリプト」ボタンをクリックし、[スクリプト]画面を開きます。



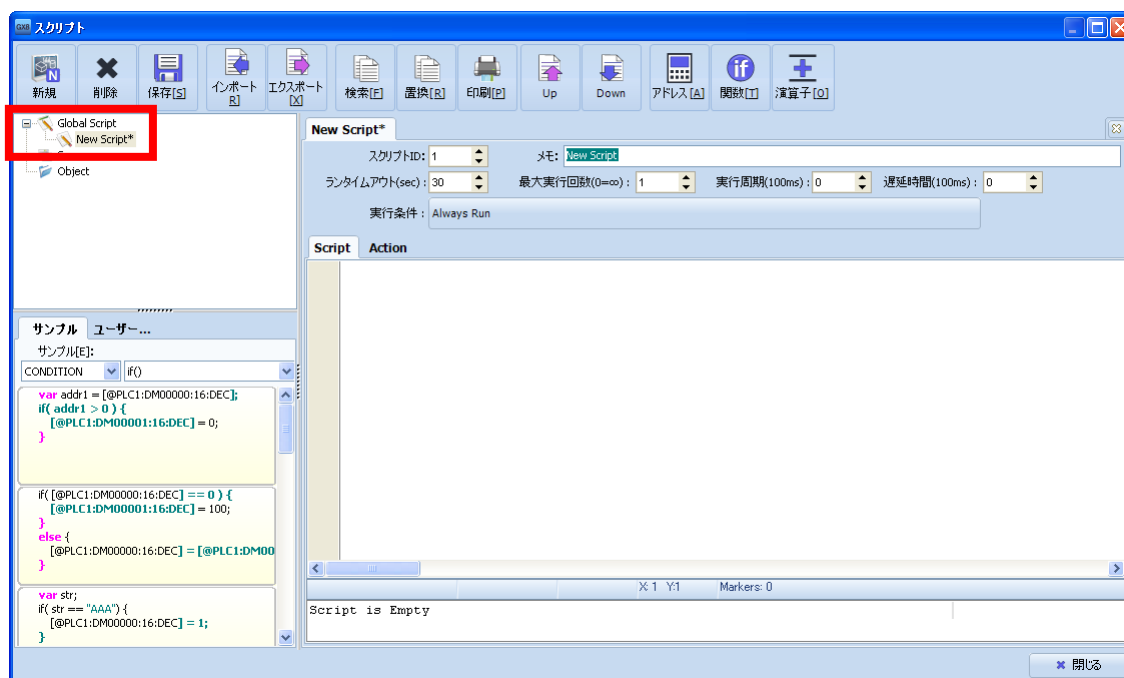
[スクリプト]画面の[新規]ボタンをクリックします。



全ての画面でスクリプトを実行させるため[Global Script]を選択し、「OK」をクリックします。



[スクリプト]画面の[Global Script]に新規スクリプトが追加されます。



スクリプトを編集します。

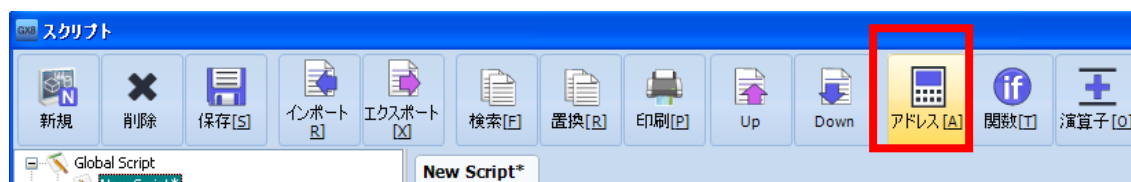
例 1.) PLC1 (R1000～R1015) → PLC2 (R1000～R1015) ヘデバース転送
PLC2 (R2000～R2015) → PLC1 (R2000～R2015) ヘデバース転送
この場合のスクリプト：

[@PLC2:R010:16:DEC]=[@PLC1:R010:16:DEC];

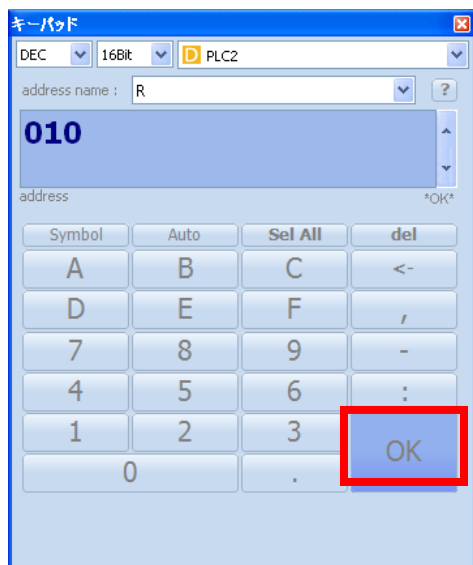
[@PLC1:R020:16:DEC]=[@PLC2:R020:16:DEC];

と記述します。

[アドレス]ボタンをクリックします。



[キーパッド]画面で、PLC2 のアドレスを入力し、「OK」をクリックします。



スクリプトが記述されます。



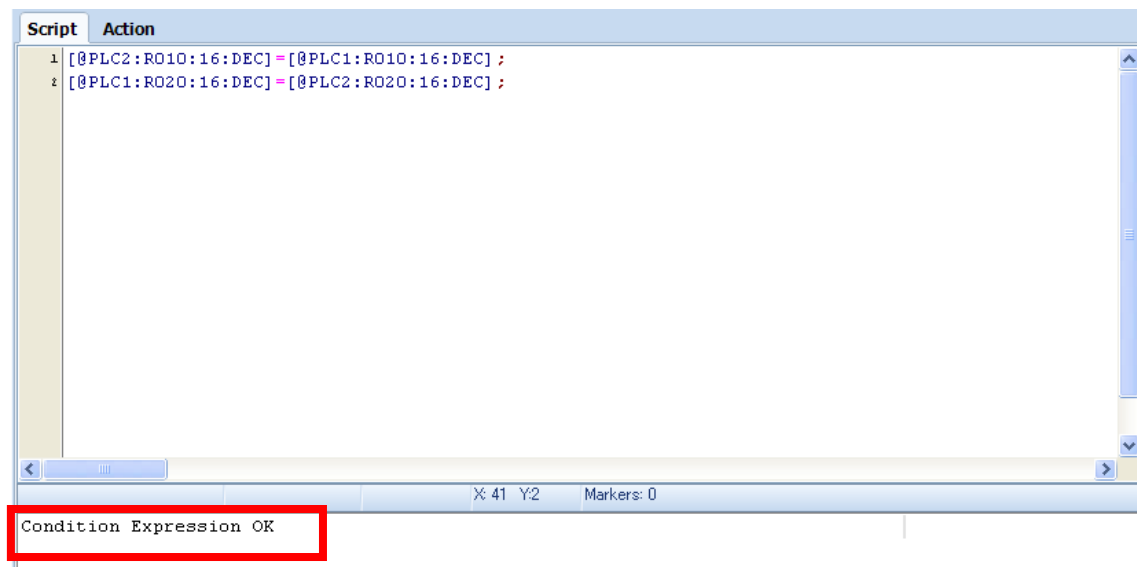
「=」を直接入力し、同様に PLC1 のアドレスを記述します。



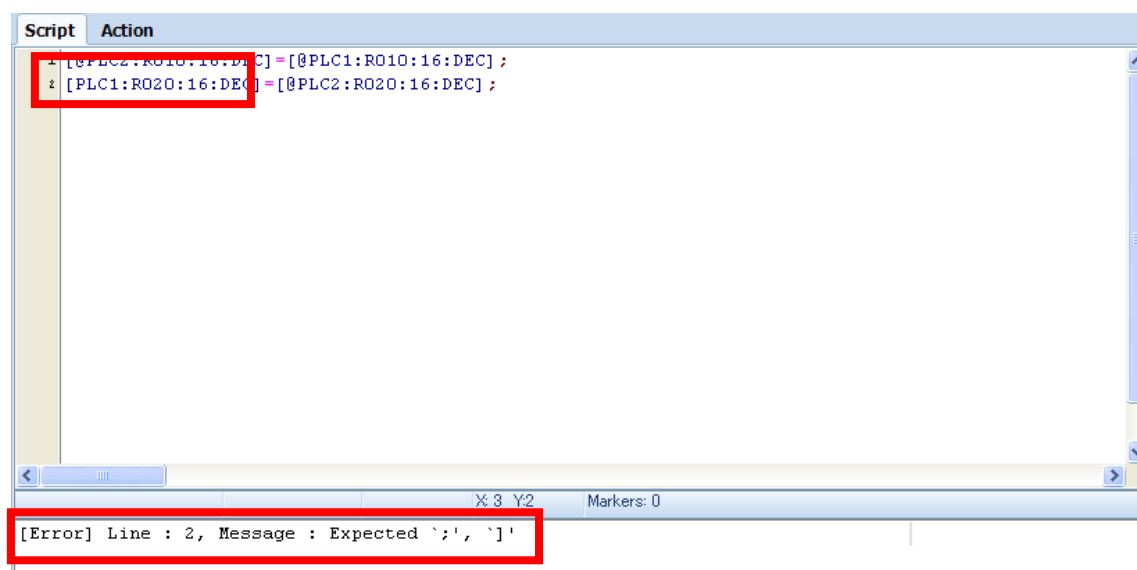
「;」を記述します。



スクリプトの記述の際に、下のエラー画面で[OK]が表示されていることを確認してください。

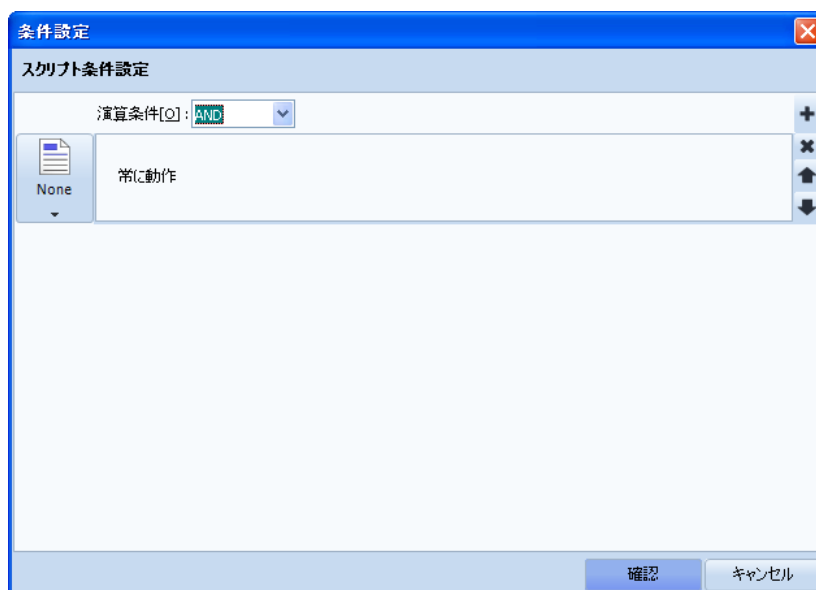
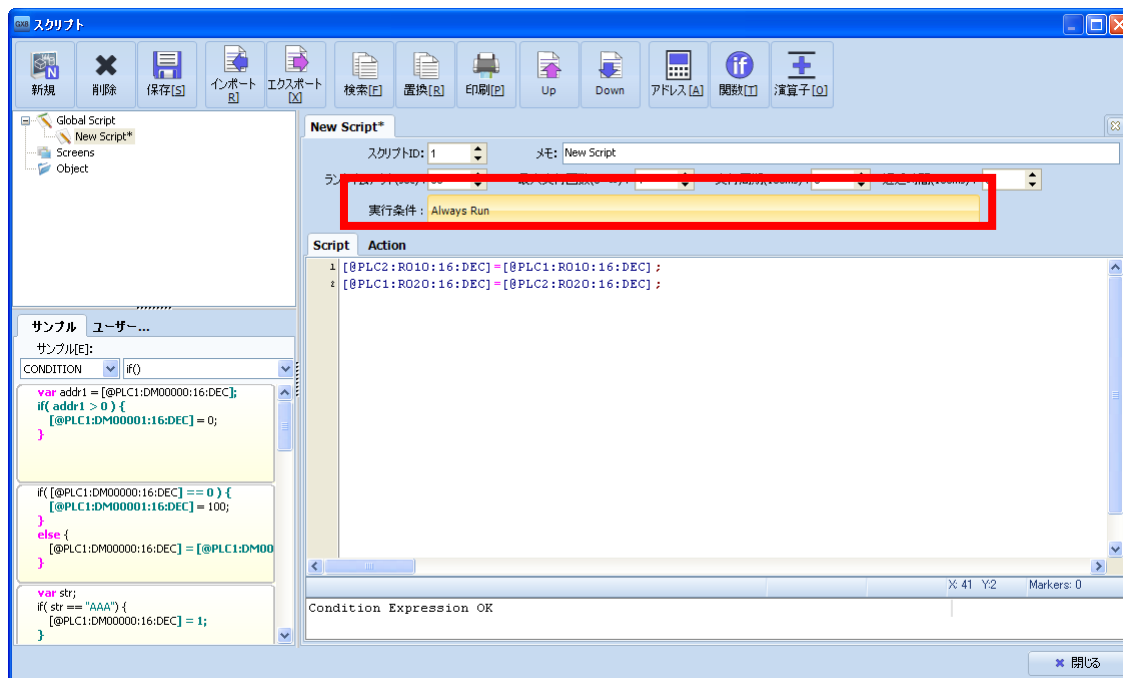


スクリプトにエラーがある場合（例では、PLC の前の@が抜けている）



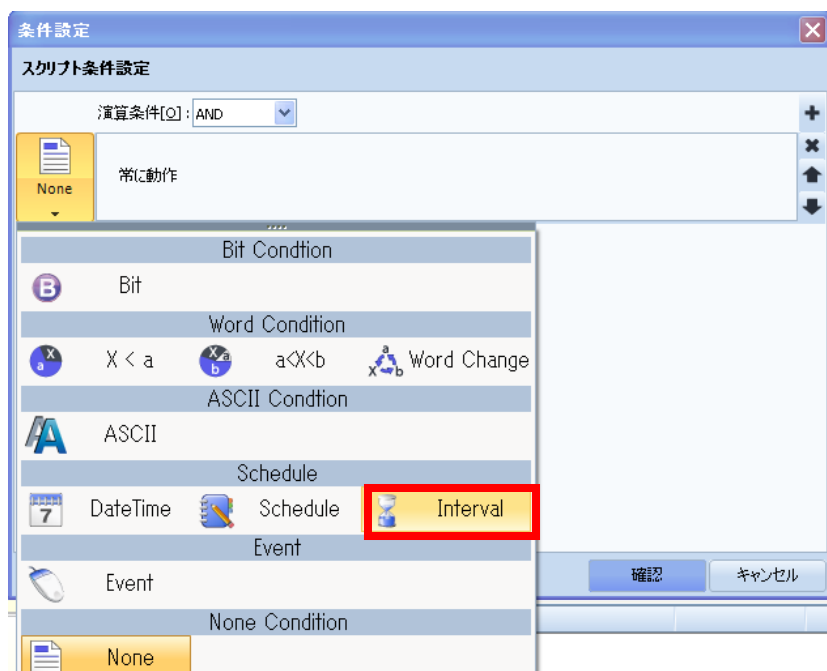
スクリプトの実行条件を設定します。

[実行条件]右のボタンをクリックし、[条件設定]画面を開きます。

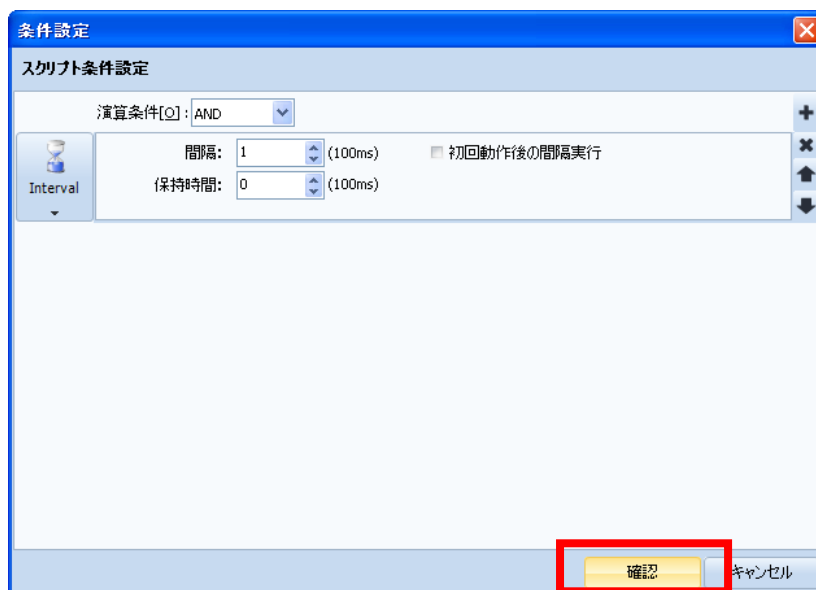


例では、インターバル（毎 1s 更新）を設定します。

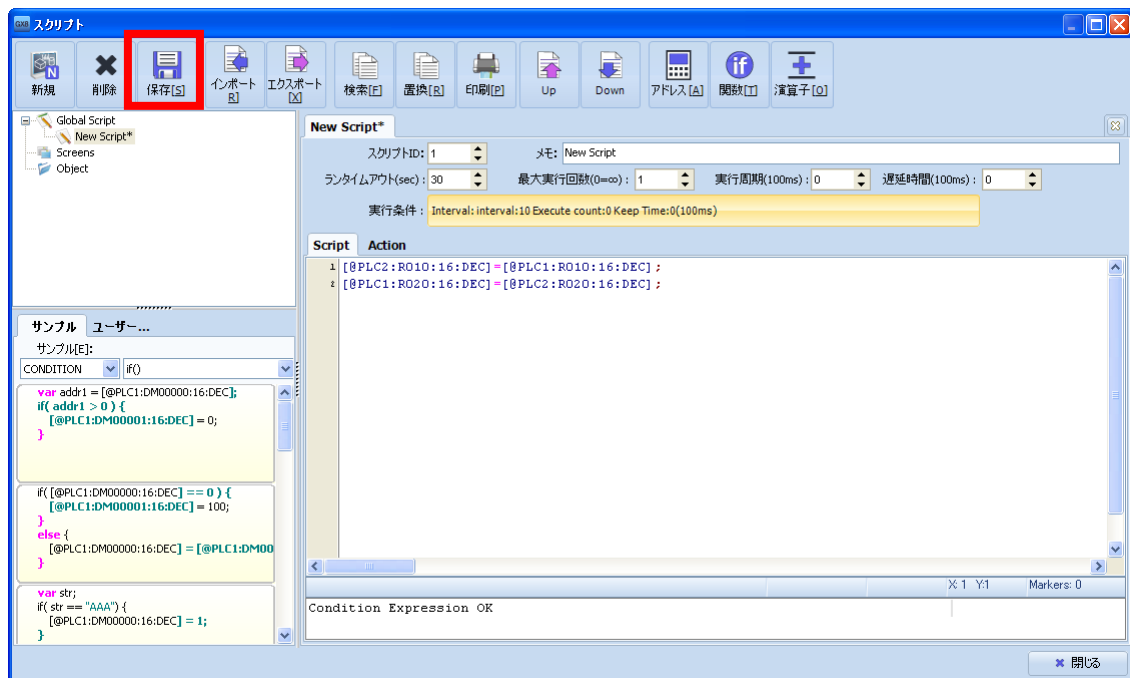
左の[None]ボタンをクリックし、プルダウンメニューで[Interval]をクリックします。



「確認」ボタンをクリックします。



「保存」ボタンでスクリプトを保存します。



例 2.) 一度 GX8 の内部デバイスを ON/OFF する場合

PLC1 (R1000～R1015) → (SYS1.0～SYS1.15) へデバイス転送

PLC2 (R2000～R2015) → (SYS2.0～SYS2.15) へデバイス転送

(SYS1.0～SYS1.15) → PLC2 (R1000～R1015) へデバイス転送

(SYS2.0～SYS2.15) → PLC1 (R2000～R2015) へデバイス転送

この場合のスク립ト :

```
[@SYS:00001:16:DEC]=[@PLC1:R010:16:DEC];
```

```
[@SYS:00002:16:DEC]=[@PLC2:R020:16:DEC];
```

```
[@PLC2:R010:16:DEC]=[@SYS:00001:16:DEC];
```

```
[@PLC1:R020:16:DEC]=[@SYS:00002:16:DEC];
```

と記述します。